

## さらに神学校を用いていただくために

東京バプテスト神学校 校長 藤井 秀一 (花小金井キリスト教会)



神学校では2025年度の実施に向けて、新カリキュラムの検討作業が始まっています。まずは、過去の時代状況で必要とされたコースや課目を現在の教会のニーズに適合させ、シンプルかつわかりやすく整理します。さらに通信環境を活かし、広範囲の地域から新たな講師を招き、新鮮な視点による講義を行っていきます。

さて今年度前期の「公開講座」では、特に「宣教学」に多くの方が関心を示し受講されました。この関心の高さは、現在停滞している日本の教会の状況に対する憂慮の表れとも言えるでしょう。神学校では「教会現場の活性化」を願って「公開講座」を開講してきました。「公開講座」では教会単位で受講できる「教会共同受講(2名以上)」が可能です。ぜひご活用ください。2024年度からはさらに「公開講座」を充実させ、音楽科本科に入学しなければ受講できなかった課題も「公開講座」として開講する方向で検討中です。それに伴い、現行の「教会音楽奉仕者養成コース」は今年度末で終了となります。

後期の「公開講座」では、ナザレン教団の石田学氏を講師に迎え「宗教学：日本の宗教性とキリスト教」が開講されています。日本でキリスト教が受け入れられにくい理由を、宗教性の視点から考察し、教会の使命と可能性を考察します。また「キリスト教倫理II」の「公開講座」では、日本社会におけるキリスト者の使命や生き方について、さまざまな課題と向き合っている現場からの宣教視点、取り組みを学び、新たな洞察を得る機会を提供しています。そしてもうひとつ日高嘉彦先生が担当の「エゼキエル書を読む」があります。これらの講義は既に始まっていますが、ビデオで最初から視聴できます。今からでもぜひ受講をお勧めします。

このように、当神学校の講義は、現役の教役者や信徒によって分かち合われる、まだ教科書には記されていない内容をも含んだ、新鮮かつ生きた学びと交わりの場です。教会単位で受講し、互いに語り合うことで、教会活性化に寄与することを信じています。どうぞご検討ください。



# 東京バプテスト神学校ニュース Tokyo Baptist Theological Seminary News

Homepage ▶ <http://tbts.jp> Mail ▶ [seminary@tbts.jp](mailto:seminary@tbts.jp)

〒112-0012 東京都文京区大塚1-1-18 茗荷谷キリスト教会内 03-3947-5141  
発行日：2023年11月9日 発行者：東京バプテスト神学校 藤井 秀一

## 巻頭言

### LGBTとジェンダー問題とキリスト教

東京バプテスト神学校 教務主任 城倉 啓 (泉バプテスト教会)



東京バプテスト神学校を支えてくださっているみなさんに心より感謝いたします。

農村伝道神学校校長の平良愛香さんを招いて、「LGBTとジェンダー問題とキリスト教」という夏期公開講座(全5回)を多くの方々と共に分かち合うことができました。柔らかくも鋭い語り口、また歌や紙芝居も用いた性の多様性についての学び。差別は優しさでは解決できないと思わされます。

聖書の読み方の可能性や解釈の方向性を広げていただきました。例えば、サムエル記のダビデとヨナタンの親密な関係について、私たちは反射的に「男同士の絆」と即断しがちで、「二人は同性カップルかもしれない」と考えもしないという講師の指摘は有益で

す。Homosocial(男性に認められることに価値を置く男性たちの排他的交わり)とHomophobia(同性愛への恐怖)があいまって、Misogyny(女性嫌悪)に帰結することを考えても、重要な視点です。

原文はどうなのでしょう。サム上18:1後半を直訳風に私訳します。

「そしてヨナタンの存在はダビデの存在の中に互いに結びつけられた。そして彼らは愛した、彼の / その存在のよう(に / な)ヨナタン(は / を)。」

後半の意味が曖昧・多様なので一文字を付け加える修正が原文を保存した学者によってなされ、ほとんどの翻訳もそれに倣っています。「そしてヨナ

タンは彼の存在のように彼を愛した。」という具合です。

原文の多様な意味に開かれている方が、ダビデとヨナタンの一体性が強められると思います。「彼らは」二人とも愛し合ったと採るのです。それは前半の「互いに結びつけられた」とも呼応します。また「存在」(ネフェシュ)という同じ単語が三回使われていることも留意して訳出すべきでしょう。この一体性を持つ相互の愛が同性愛なのか親友同士の友情なのかは、読者の翻訳と解釈次第です。

聖書に何が書いてあるのか、あなたはそれをどう読むのか。各個人の生き方と聖書の読み方が揺さぶられる講義に感謝しています。冬期公開講座も楽しみにしています。

## 神学校献金・後援会献金(2023年度4月~9月)

● 教会献金 ..... 27件 合計1,492,685円

【東京地方連合】教会・伝道所 大久保バプテスト教会 品川バプテスト教会 大井バプテスト教会 花小金井キリスト教会 泉バプテスト教会 篠崎キリスト教会 経堂バプテスト教会 仙川キリスト教会 日本バプテスト船橋教会 富里キリスト教会 多摩みぎわキリスト教会 花野井バプテスト教会 目白ヶ丘教会

【北関東地方連合】教会・伝道所 上尾キリスト教会 飯能バプテスト教会 太田キリスト教会 ふじみ野バプテスト教会 西川口キリスト教会

【神奈川地方連合】教会・伝道所 座間・バプテストキリスト伝道所 川崎バプテスト教会 相模中央キリスト教会 青葉キリスト教会 横浜JOYバプテスト教会 横浜ニューライフバプテスト教会 湘南台バプテスト教会

【その他】教会・伝道所 小倉キリスト教会 宇美キリスト教会

\*連合別内訳\* 東京930,900円、北関東227,285円、神奈川319,500円、その他15,000円

● 集会献金 ..... 8件 合計144,930円

入学礼拝席上献金 入学礼拝席上献金(オンライン) 夏期講座席上献金 夏期講座席上献金(オンライン) 図書献金

● 後援会献金 95件・後援会オンライン月々支援 31名 ..... 合計696,180円

※詳細は後援会ニュース1月号に掲載いたします。

### 東京バプテスト神学校の働きを支援するために、あなたも「後援会」にご入会ください

- 1. 定期支援 個人会員：年額1口 ¥5,000 何口でも歓迎いたします ※専用払込票をご希望の方は、メールにてお申込下さい。
- 2. 自由献金支援 支援額も、支援回数もご自由にお決めください。

郵便振替口座 **00210-8-75658** 東京バプテスト神学校後援会

## 2023年度 冬期公開講座のご案内

### 「LGBTとジェンダー問題とキリスト教：合意って何?」

日時 2023年12月26日・27日(火・水)

場所 茗荷谷キリスト教会礼拝堂(東京都文京区大塚1-1-18)

講師 平良 愛香先生 (日本基督教団川和教会牧師、農村伝道神学校校長)

申込締切日 2023年12月15日(金) ▶▶▶ 詳細はホームページをご覧ください ▶▶▶



う え だ  
上田 みずほ

泉バプテスト教会

「そんなこと言い出したらキリないよ」「それ考えちゃうと何もできなくなっちゃう」「難しいねー」

どうぶつの権利を守りたくて肉を食べない私に、何度も投げかけられた言葉たち。

今回の講座で、平良さんが、言われたくない、言わないよう心がけているとして紹介された言葉でした。

LGBTの問題への関心は、決めつけや無理解、見下し、誤解による不当な権利侵害や差別に対する疑問からでした。キリスト教界でもそんな原因からか、認める認めないだの、聖書的でないなどという意見に遭遇したこともあります。女性役員を認めるか認めないか…かつて通っていた教会の中で繰り返されてきた議論でも全く同じセリフが登場していたことも思い出しました。浮き上がる問題は様々でも、差別の根源って同じことなのかなと今回さらに強く思いました。講座の中でも語られたことですが差別への問題意識を持つのは、差別された経験のある人。被差別側に立つことが少ない人と、例えば生まれながらに差別対象になることが多い人（女性というだけでよくそう感じる）の間には、いつもただならぬ温度差があるのだと思います。

今回参加させていただいて再確認したことは、共に生きることは面倒くさいことをし続けることだということです。まとめて言う…簡単に言う…一般的には…効率よく…、カテゴライズしてそこから溢れ出る存在を切り捨てる。教会は決してそういう場であるべきでないことを認識し、もし温度差があるとしても模索し続けることに意味があるのだと教えられた素晴らしい2日間でした。



さわ だ たけし  
澤田 猛

横浜 JOY バプテスト教会

私の職業は建築士なので、設計業務の中ではバリアフリーとかオールジェンダートイレ等について提案することも多いので、LGBTのことも関心はありましたが、私たちの教会では、喫緊の

課題としては取り組んでいませんでした。私自身もいざし必要に迫られればその時に考えればよいという意識があったことを反省させられました。

平良愛香先生の『差別は優しさでは解決しない。知識と想像力が必要なのだ!』という言葉にはハッとさせられました。そもそも言葉の定義が正しく理解できていないこと。更に性の捉え方は、「生物学的な性」×「性自認」×「性的指向」という視点から整理していくと無数の組み合わせがありうるので、LGBTを単純なカテゴリーにあてはめて、決めつけてしまうことの危険性も指摘されていました。まずは、偏見を捨てて正しい知識を学ぶことから始めなければならないということに気付かされました。

そして最も興味深いテーマが、「LGBTと聖書の整合性はどうか?」ということでした。平良先生からは、性的マイノリティ批判に用いられた聖書箇所と共に、性の多様性が垣間見られる聖書箇所の紹介もあり、最終的には聖書の再解釈も必要ではないかという問題提起もありました。私自身は、聖書を土台とした上で、『イエス様だったらどのようにされるのだろうか?』と想像力を働かせながら、LGBTの方々にどのように寄り添っていきことができるのかを祈りつつ考えていきたいと思われました。



### 夏期公開講座アンケートより抜粋

- 当事者にとってカミングアウトは命がけであることを絶対に忘れないでいたい。教会は、生き辛さの中で傷ついた人たちが安心してありのままの自分でいられる場所でありたいと思う。
- 男女2分法や、男女間の結びつきだけが正しく、それ以外は神の摂理に反するという従来の線引きを続ける限り、いまの世の中の差別や支配・従属関係、また生産性で人を計る考え方などから脱却できないという理解をいただいた。
- 今までさほどこだわりなく読み進めていた聖書の箇所が、ある方にとっては傷つけていた箇所があることを知りました。思いがそこに気付かなかったことにたくさん考える時をいただきました。キリスト教に身を置く自分は何を伝道できるのか。
- LGBTの中にも様々な多様性があり、バリエーションとグラデーションがあることを、また、レズビアン・ゲイの間にも男と女の構造があることを知りました。キリストの教会こそがあらゆる垣根を超えて、というよりも垣根をぶち壊して、思いこみ、生産性で人の価値を決めない所でありたいです。しかし教会の中で、さらに同性（女性）の中で保守的、父権制的な言葉、考え方が垣間見えることも感じる今日この頃です。
- 聖書の言葉を使って、自分と異なる考えを持つ人、生き方をする人を攻撃するのは恐ろしいこと。赦された者の集まりであるはずの教会で、聖書の言葉を使って人を断罪することはあってはならないと思った。
- 自分の目が異性愛者視点であることにも気づかされました。
- LGBTの事柄は、聖書をどう読んでいこうかが問われる

ことでもあると学びました。自分が経験したことのない事を自分事として考えることは難しく、また、聖書を新しく読み取っていくことは、自分自身も変わっていく勇気が必要だと思います。だからこそ学び続けたい。知ろうとしないことは、セクシュアルマイノリティの方々に「いない存在」にしていくことと同じ。当事者の方の声を聞いて学んでいきたいです。

- 私の発している言葉によって誰かを傷つけてしまうのではないかと、なかなか意見を言えなかったり、LGBTに関しては特にやさしさでは到底補いきれない問題だと思っていました。繰り返しの学びとまた新たに起こっている事実を間違いのないように知っていくことが大切と思われました。
- このような人権に関わる学びをし続けないと、無意識に人を傷つける言葉を発してしまう自分がいると思っています。
- 2日間の講義の中で、平良先生は反対する側の人たちを糾弾するようなことはひと言もおっしゃらなかったことが心に残ります。正しさ議論の土俵に乗らない。自分の正義を振りかざすことはしない。性の多様性を知って下さいと呼びかける。この姿勢に学びたいと思います。
- LGBTの方が、教会に、自分の周りに、今いないのではなく、すでにいるかもしれないと、いつも意識をもっていたいです。
- 教会は良い人たちの集まりではないのですね。でもお互いを認め合い、理解できなくても共に居てよい場所となりますように。
- 聖書や教会の中にある「こうあるべき」と思っていたこと、思われていたことに、そのまま受け取るのではなく、違和感のある時には一度立ち止まって、自分で考える勇気を持つことができました。

500円からご支援できます!

後援会の会費が  
月々500円から ご支援いただけるようになりました。



ホームページの「後援会月々支援」のページで、クレジットカードを使ってご支援いただけます。

スマホやタブレットからもお手続きができますので、ぜひ皆様のお祈りとご支援をお待ちしています。

▲ 今すぐアクセス! <https://tbts.jp/online-shien/> (後援会月々支援ページ)

